

★参加 6 団体

★参加者数 7 名

	団体名	取り組み
1	白木を守る会	・太陽光発電の啓蒙・山芋栽培を通じて非常食、防災 他
2	NPO 法人ふぁみりあネット	・育児、介護サポート・男女共同参画・環境保全、防災他
3	花車の会	・地域活性化・交流の場・生涯学習講座・地域課題解決
4	浜岡原発を考える袋井の会	・原発学習会、講演会開催・核燃料安全管理を求める
5	ろいっこ SDGs	・子供達と共に SDGs 環境学習・次世代に SDGs を伝える
6	NPO 法人健康文化クラブ	・生涯学習講座・うたごえ広場・ふらっと事務局

【情報発信方法の変化】

講演会、講座などの開催が難しくなっている。組織力と講師の知名度で、100人単位の集客が可能ですが、ターゲットが広くテーマも「環境」「防災」など大きくなるほど主催者は苦勞する。SNSの普及により、多様な情報を何時でも誰でも何処でも得られる様になりました。市民活動団体は、公益情報の発信や啓蒙活動について今後はニーズに対応できるように工夫を凝らす必要がある。市民に役立つ情報を確実に届ける事が課題です。

環境・防災への課題意識を高める

■ 生ごみ処理について

- ・年間約 5000 万トンのごみの内、約 38%にあたる 1900 万トンが生ごみ。そのうち家庭から出る生ごみが 50%、生ごみの約 60%は焼却、埋め立て。リサイクル率はおよそ 40%です。
- ・生ごみのリサイクル方法は、肥料や飼料などとして再利用する方法が考えられます。
- ・生ごみの内、約 65%～70%が水分⇒ごみの減量（水切り、使いきり、食べきり）
- ◆家庭用生ごみ処理器等で堆肥化を促進するため、市民団体と行政が積極的に連携し環境意識の向上と取り組みを行う必要がある。
- ◆子供達への環境教育の必要性は非常に高く、生命にかかわる防災にも直結する

■ 災害関連死を防ぐ TKB(トイレ・キッチン・ベッド)

- ・断水⇒水洗トイレ使用不可⇒劣悪トイレ環境⇒排泄回数を減らす⇒水分摂取を控え⇒脱水症状⇒口腔内の細菌が増加⇒誤えん性肺炎
- ・偏った食事⇒栄養不足⇒高血圧進行⇒循環器系疾患
- ・雑魚寝⇒ストレス⇒睡眠不足⇒体力や免疫力が低下⇒呼吸器系疾患
- ・医療機能や介護サービスの停止・地震への恐怖・意欲の低下 など様々な条件が重なることで関連死につながっています。
- ◆根本的に関連死を減らすためには：行政や医療関係者の対策だけでは不十分で、企業や住民なども協力して社会全体で対策を進めることが必要

■ 気候変動と環境の問題(自然災害・地球温暖化・森林の減少)

「地球温暖化」とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの濃度が大気中に増加し、地表面の温度が上昇する現象。大気中の二酸化炭素濃度が 400ppm を超える濃度となり、気温上昇が引き起こされ、陸上や海の生態系への影響や、食料生産や健康など人間への影響も顕在化してきています。

- ・海水熱膨張、氷河、氷床が融けて海面上昇（今世紀末 82 センチ以上上昇）
- ・世界平均気温の上昇で動植物の 2～30%絶滅リスク増加
- ・マラリアなどの感染症リスク高い地域の増加
- ・高温、熱波、大雨、サイクロンが猛威を振るい高緯度地域では大雨、亜熱帯地域は乾燥の可能性
- ◆家庭から二酸化炭素排出量を減らす取り組み <省エネ家電、節水、ごみ削減、地産地消、クールビズ、テレワーク、LED 照明、住宅断熱、高効率給湯器、量り売り、公共交通、サステイナブルショッピング、EV 車利用、5R 生活 他> 一人ひとりが気付いたこと、出来る事からはじめよう。

★参加4団体

★参加者数7名

	団体名	取り組み
1	シニアクラブ袋井	高齢者の生き甲斐と健康増進を目的にイベント、講座開催
2	袋井市グラウンドゴルフ協会	グラウンドゴルフを通じて健康維持、交流、親睦を図る
3	袋井市スポーツ推進委員会	市民の健康増進のためスポーツの普及と運動の推進を図る
4	NPO 法人健康文化クラブ	・生涯学習講座・うたごえ広場・ふらっと事務局

つながりの中で活性化する市民スポーツ

■ スポーツイベント開催の課題

- ・世代別の情報網で分断されているので、情報共有が難しい面がある。
- ・高齢化、コロナの影響もありスポーツ人口が年々減少している。
- ・スポーツの多様化が進み多人数で集まることが少なくなった。
- ・主催する事務局の負担が年々重荷になってきた。
- ・老若男女が交流する場を作るには複数の団体や組織の協力が必要。



■ 交流の場づくりの必要性

- ・健康づくり、ひきこもり支援、防災、共助そして高齢者支援の観点からもコミュニティ形成は重要課題で、交流の場づくりは大切な事業。
- ・子ども達にグラウンドゴルフの楽しさを伝えることは、その保護者の方々にも興味を持っていただけるので世代間交流の貴重な場になる。
- ・ボッチャを定期的に行う場を作る事でユニバーサルな交流が定着している地域もある。
- ・子育て中の母親の運動不足解消に、子どもの登校中に母親たちが楽しめるスポーツをする試みも定着している。ママ友の交流の場。
- ・スポーツに限らず、ふらっとで高校生に教えてもらうスマホ講座を実施した際高齢者と高校生の世代間交流が好評で、2回目の企画も計画中。
- ・「祭り」のようなイベントを通じて「スポーツの体験会」が実施されると老若男女がスポーツの情報共有をする機会になる。



■ 市民の健康増進に向けて

- ・スポーツ振興、文化振興そしてコミュニティづくりが鍵。
- ・地域の活性化は「まちづくり協議会」に深く関わっている。
- ・地縁組織、市民活動団体、企業等を活用して日本一健康文化都市へ。

- ◆ 多様なスポーツの情報を多世代に伝えたい
- ◆ 団体同士の連携を持ち情報共有、人財共有、助け合い
- ◆ 身体の健康、心の健康、地域の健康



★参加9団体

★参加者数13名

	団体名	取り組み
1	高南ちよい助け合いの会	地域の困りごとを助け合う会
2	地域支え合いの会	包括支援センターが事務局になり地域支え合いを考える会
3	NPO 法人ふぁみりあネット	・ファミサポ運営（育児、介護）・放課後児童クラブ他
4	NPO 法人国際教育文化協会	・ブラジル人学校・放課後児童クラブ・パソコン教室他
5	新日本婦人の会	平和を願う活動の一環に折鶴を繋ぎ広島、長崎へ届ける
6	ユースネットふくろい	若者の居場所、就労支援、人材育成、子どもの夢を育てる
7	遠江断酒会	アルコール依存症とその家族の支援
8	花車の会	地域課題について学習し解決に向けた取り組みを支援する
9	NPO 法人健康文化クラブ	・生涯学習講座・うたごえ広場・ふらっと事務局

地域課題と居場所

■ 居場所の必要性

- ・サロン、でんでん体操、移動販売車、その他の繋がりで見守り助け合い、情報共有の場
- ・地域の交流、見守り助け合い、情報共有の場
- ・若者の居場所、ひきこもり解消支援、交流の場、コミュニケーションの練習
- ・気楽さ、自由さ、ネットでは味わえないつながり（於：ふらっと、隔月1回）
- ・申込不要、名前を言わなくて良い、黙っていても良い・・・徐々に馴染む
- ・困りごとなどの相談も気軽にできる場所

☆居場所の中で情報共有から「助け合い」「絆」へとつながる。

☆健康づくり、防災、福祉の起点となる。

☆作品展示、音楽活動、茶話会、による高齢者の交流の場

☆交流、連帯感、共感を味わって絆を深める

◆地域に密着した居場所づくりを推進することが課題解決の鍵となる

◆空いている場所があれば良いわけではなく「会いたい人」が居る居場所が必要

◆ふらっともある意味「居場所」です。交流の中で多様なネットワークが機能しています。

■ 民生委員の役割

- ・地域で問題を抱えている人の悩みを解決するために、必要な機関に繋ぐ
- ・コーディネーターとして活動する。
- ・多様な課題に対応する窓口として
- ・ふらっとも選択肢の一つです
- ・民生委員と居場所の結びつきも課題解決には欠かせないが民生委員の為の居場所にならない様に、居場所の運営に工夫が必要
- ・本当に困っている人（ヤングケアラー、家庭内暴力、ひきこもり、アルコール問題、移動手段が無い人）に手を差し伸べるのが民生委員の役割ですが、表面化しないケースが多く、情報収集にも課題が多い。地域住人同士の連携、つながりから問題を見極めて対応して行くことが重要
- ・断酒会がふらっとを活用することで、対応できる課題の幅が広がった。

